

2013年8月29日

株式会社 富士キメラ総研
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
 12-5 小伝馬町YSビル
 TEL.03-3664-5839 FAX.03-3661-1414
<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
<http://www.fcr.co.jp/>
 広報部 03-3664-5697

クラウド、ビッグデータで進展する

M2Mソリューションの国内市場を調査

2017年度予測(2012年度比)

■M2Mソリューション国内市場は2,762億円(2.3倍)

～M2Mアプリケーションの需要増に伴い、全体市場も拡大

■M2Mプラットフォームサービス市場は100億円(100.0倍)

～初期導入の簡便さにより新規分野・ユーザーの取り込みに期待

マーケティング&コンサルティング(株)富士キメラ総研(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 田中 一志 03-3664-5839)は、2013年4月から6月にかけて、通信モジュールを機器や自動車などに搭載して自動的にデータを収集するシステムである、M2M(Machine to Machine)ソリューションの国内市場を調査した。その結果を報告書「2013 M2Mソリューション関連マーケティング調査総覧」にまとめた。

この報告書では、アプリケーション(7品目)、インフラ(5品目)、ハードウェア(4品目)の国内市場について、現状を分析し今後を予測した。加えて、主要アプリケーションのM2M活用事例についても取り上げた。

M2Mソリューションは、通信モジュール価格や通信料の低下、通信高速化を背景として適用領域の拡大が期待されている。通信キャリアやSIer(システムインテグレーター)、メーカーなどが新規領域の拡大を目指して積極的に取り組んでおり、M2Mプラットフォームを構築し、クラウドサービスとして提供することで、ユーザーの裾野拡大を狙っている。

従来からM2Mソリューションは、オーダーメイド型であり、開発には多大なコストと時間がかかるため、大手企業の利用が中心である。これに対して、SIerやメーカーから提供され始めている、データ収集、分析機能を備えるM2Mプラットフォームでは、M2Mに必要な機能を共通化して提供するため、ユーザーはシステムを一から開発する必要なく、コストの抑制とサービス開始までの時間短縮などの利点が受けられる。それに伴い、今後さまざまなデータがクラウド上に集約され、「ビッグデータ×M2Mビジネス」が本格展開すると考えられる。

また、M2Mアプリケーションとして、自動販売機管理、自動検針、車載、リモート監視、コンシューマー機器などさまざまな用途で利用されている。業務効率化や、法制度・自然災害・事故などの外部要因への対応、グローバル化への対応からもM2Mの需要は拡大しており、今後も用途開拓が進んでいくとみられる。また、M2Mビジネスに新規参入する事業者も増加しており、農業や医療、ヘルスケアといったまだ比較的開拓が進んでいない分野において、ビジネスモデルの開発が目指されている。

■M2Mソリューション国内市場

2012年度	2013年度見込	2017年度予測	2012年度比
1,203億円	1,611億円	2,762億円	2.3倍

現状のM2Mソリューションは個別最適によるオーダーメイド型であり、ユーザーは大手企業を中心となっている。2012年度の市場は1,203億円となった。M2Mユーザーが海外でも対象マシンを一元管理したいというニーズが拡大するなど、2013年度は1,611億円となる見込みである。

今後は、M2Mプラットフォームサービスの活用により、開発コスト削減が可能となりユーザーの裾野が拡大、またグローバル対応M2Mプラットフォームサービスの利用が進み、さまざまなデータがクラウド上に集約、「ビッグデータ×M2Mビジネス」が本格展開すると予想され、2017年度は2012年度比2.3倍の2,762億円が予測される。

特にアプリケーション市場が全体市場を牽引すると予想される。オンプレミス(自社運用)型とASP/クラウド型に分かれ、2012年度時点ではオンプレミス型が450億円、ASP/クラウド型が160億円となっている。今後もオンプレミス型の割合が高い傾向ではあるが、インシャルコストが抑えられる利点からASP/クラウド型

も拡大が予測される。

中でも、電気自動検針は各電力会社がスマートメーターの導入に併せてシステム構築に着手するため、2013年度も大幅に市場が拡大する見通しである。以降も当面は需要が継続すると考えられ、安定的な市場推移が期待される。また、車両運行管理は、M2Mソリューションとして、通信モジュール搭載／クラウドサービス対応のタコグラフの市場投入が進められており、タコグラフで取得したデータを、通信を用いてリアルタイムに管理／分析ができることを利点に導入が拡大している。農業生産管理は、システム導入のインシヤルコストが低く、システム管理負担が少ないクラウドサービスの提供が活発化しており、2010年頃から農業向けソリューションの参入が増加している。今後、先進的ユーザーにおける導入効果が明確になっていくことで、導入を検討するユーザーも増加すると期待される。現時点では、導入費用をネックとするユーザーが多いため、低価格化を進めることでの需要喚起が必要とみられる。

通信サービスは、携帯電話サービスが高い構成比を占め、今後も利用が拡大する。PHSサービスもエレベータ遠隔監視、ノートPCの紛失・盗難対策ソリューションなどで実績が高く、今後の活用も進むと期待される。

移動体通信モジュールは、通信サービスとの連動により堅調に市場が推移すると予測される。ただし、リプレイス間隔が長くなっているため、新規分野の開拓が必要であり、通信モジュールメーカーによる積極的な市場開拓も進められている。

通信機器は通信ボックスを対象としている。通信ボックスとは、移動体通信モジュールを搭載、または外付けでデータ通信端末に対応したM2M用途に適したルーター、アダプターである。さまざまなインターフェースに対応しており、データ収集も容易であるため、SIerの取扱いが増加し、市場拡大の要因となっている。また、通信ボックスの管理ソリューションも提供されてきており、さらなる採用拡大が期待できる。

<注目市場>

■M2Mプラットフォームサービス国内市場

2012年度	2013年度見込	2017年度予測	2012年度比
1億円	10億円	100億円	100.0倍

M2Mプラットフォームサービスを中心としたソリューション提供が始まったのは2011年度後半以降であり、現時点ではユーザーに対する訴求段階のため2012年度の市場規模は1億円となっている。

従来のM2Mソリューションは大手企業の利用中心であり、多額の開発コストを投資できない中小ユーザーへの需要喚起は進まなかった。これに対し、異なるデバイスからの情報を、M2Mネットワークを通じて受け入れて分析するM2Mプラットフォームを介し、さまざまなアプリケーションサービスが実現できる「M2Mクラウドソリューション」が提供されてきている。

既に個別最適化されたM2Mソリューションを運用している大手ユーザーがM2Mプラットフォームへ切り替えることは考えにくい。M2Mプラットフォームサービス市場の拡大には中小ユーザーの開拓が必要である。啓発展開による需要の掘り起こし、グローバル対応、導入効果提案を続けていくことが求められる。加えて、M2Mソリューションをどのように構築し、どのように日々の運用を行うかが掘みきれていないユーザーに向けては、単にプラットフォーム提供によるコスト抑制だけでは難しく、業種ごとに特化したアプリケーションの機能共通化と自社ユースに合わせたカスタマイズ対応が重要となる。

また、オーダーメイド型でM2Mソリューションを構築、運用してきたユーザーにとっては、今後は国内のみならず海外を含めた運用の必要性が、ビジネスのグローバル化とともに一層高まっていくと考えられる。こうしたニーズに対してグローバル対応M2Mプラットフォーム活用により、顧客が世界に広がる製造業ユーザーを中心に需要拡大が見込まれる。

<調査対象>

アプリケーション
自動販売機管理、電気自動検針、LPガス自動検針・集中監視、水道自動検針、車両運行管理、農業生産管理、見守りソリューション／サービス
インフラ
通信サービス(携帯電話サービス、PHSサービス、WiMAXサービス、MVNOサービス)、M2Mプラットフォームサービス
ハードウェア
移動体通信モジュール(携帯電話通信モジュール、PHS通信モジュール、WiMAX通信モジュール)、通信機器(通信ボックス)
M2M活用事例
機械メンテナンス、モバイル電子決済、環境監視、河川監視、橋梁監視、気象情報収集、EV／PHV向け充電インフラ管理、テレマティクス、AED遠隔監視、BEMS／FEMS、HEMS／MEMS

<調査方法>

富士キメラ総研専門調査員によるヒアリング及び関連文献、データベース活用による調査分析

<調査期間>

2013年4月～6月

以上

資料タイトル	: 「2013 M2Mソリューション関連マーケティング調査総覧」
体裁	: A4判 222頁
価格	: 150,000円 (税込み157,500円) CD-ROM 付価格 160,000円 (税込み168,000円)
調査・編集	: 株式会社 富士キメラ総研 研究開発本部 第二研究開発部門 TEL:03-3664-5839 FAX:03-3661-1414
発行所	: 株式会社 富士キメラ総研 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町12-5 小伝馬町YSビル TEL:03-3664-5839(代) FAX:03-3661-1414 e-mail: info@fcr.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL: http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ http://www.fcr.co.jp/